

ご報告 孟蘭盆施餓鬼秘法会について



ご本山・孟蘭盆施餓鬼秘法会

ご本山では7月13日から3日間、「孟蘭盆施餓鬼秘法会(うらぼんせがきひほうえ)」が厳修されました。この孟蘭盆施餓鬼秘法会は、有縁無縁一切のご先祖様をご本山にお迎えして、3日間にわたり合計十二座の法要が勤められ、二夜三日にわたりお茶水や刻み精進具などの供物、また光明真言を不断に唱え続けてご供養のまことを積み上げさせていただくものです。

今年度は親先生と実念師が最終日の15日にお参りをいただきました。結願法要に引き続き職衆法話が行われ、各法要でご先祖様の戒名を一つ一つ記入してご廻向を託すことの大事さをご自身の体験を交えて語られました。

解説 孟蘭盆施餓鬼秘法会について

読み方は「うらぼんせがきひほうえ」です。孟蘭盆とも呼ばれ、一般的にはお盆と言われます。言葉の由来は、サンスクリット語の「ウランバーナ」の音写語という説があります。ウランバーナは「逆さ吊り」という意味。この逆さ吊りの苦しみを解放するという意味合いで、次のような逸話が残っています。

お釈迦様の十大弟子の一人である目連は、神通力の持ち主です。ある日、目連は、亡くなった母親が今どうなっているかを神通力を用いて確認します。すると、母親は、餓鬼道(飢えと渴きに苦しむ世界)に落ち、逆さ吊りにされて飢えと渴きに苦しんでいる姿になっていました。母親は目連を溺愛するあまり、他人を顧みなかったため、餓鬼道に落とされてしまったのです。逆さ吊りにされ、飢えに苦しむ母親を救おうと、目連は水や食べ物を差し出しましたが、口に入る直前に燃え尽きて灰になってしまいます。それを見た目連は何とか母親を助けようとしますが、うまくいきません。嘆き悲しんだ目連はお釈迦様に「母を救いたい」と相談します。お釈迦さまは、「7月15日(旧暦)に、すべての修行僧に食べ物や飲み物・寝床を施せば、母親の口にも施しの一端が入るだろう」と目連を諭しました。後日、目連はお釈迦様の教えのその通りに実践します。その功德は餓鬼道の世界にも伝わり、母親は救われました。お釈迦様は目連尊者に、自分の母親だけでなく、飢えに苦しむ多くの人々を救う気持ちで布施(施し)を行うことが大切だと説いています。

編集後記

令和8年熊本地震の発生に伴い、九州自動車道(松橋IC～えびのIC)を中心とした区間で、路面隆起・亀裂・橋梁損傷等の重大な被害が確認され、長期にわたり通行止めが予想されます。そのため、ご本山への移動時間が通常の2倍以上かかる予測であり、ご成就(おみぞさらえ)の延期、御廟参拝の規模縮小を検討せざるを得ない状況となりました事、ご報告申し上げます。

編集担当: 宮原実念・中山賢晴

8・9月の行事案内

お盆期間の行事案内

8月13日(木)から15日(土)



8月13日 午後5時

精霊迎え

8月14日 午前10時20分

孟蘭盆施餓鬼秘法会

8月15日 午後3時

百万遍供養

※お申し込みは、8月5(水)迄に、お願い致します。

9月23日(水) 10時20分

秋季彼岸法要

(※淡島様のお済度は法要後の13時から17時を予定しています。)

9月28日(月)

御廟参拝(ご本山)

初代住職 十一回忌法要

○9月3日(木)10時20分から

二代目住職 四回忌法要

○8月25日(火)10時20分から

ご本山・五重宝塔大法要

10月25日(日)午前11時～



この五重宝塔は、昭和41年11月21日に落慶され、本宗に縁のあるご先祖様をはじめ、民族の違いや宗旨宗派を超えた「世界の総菩提所」として建立されました。

ご先祖様の菩提を願って、管長猊下はじめ全ての参拝者によって至心に廻向される霊所です。

皆様のご先祖様も、この五重宝塔(五重宝塔永代廻向)におまつりいただき、至心の供養を積ませていただきますよう。